

大垣精工、うるま進出

金型工場特自賃に

来年1月下旬

【うるま】精密金型を製造する大垣精工（岐阜県大垣市、上田勝弘社長）が来年1月下旬にうるま市の特別自由貿易地域にある県の金型産業向け賃貸工場に触媒関連の金型製造工場を開設することが17日、分かった。同社が得意とし、排出ガスを無害化するなど環境にやさしい技術として注目される触媒関連金型の生産部門を集約させ、増加する環境関連企業からの受注に対応する。ものづくりの基盤となる金型産業を振興する県の要請に応え進出を決めた。3人体制でスタート、順次雇用を増やす予定。



大垣精工が沖縄工場を開所する県の賃貸工場＝17日、うるま市勝連南風原

同社は沖縄進出の理由として人材の確保と人材育成に適し、全日空の国際貨物基地や、アジアへの交通の便のよさなどを挙げている。

同社は、自動車などから排出される二酸化炭素などを無害な二酸化炭素などに変える触媒用金型などを製造。世界的に環境問題がクローズアップされるようになり、排気・排水・排煙の関連企業から金型発注が増加しているという。触媒関連金型を沖縄工場で量産し、国内外の受注に効率よく対応する。

工場は延べ床面積は300平方メートル、1億円の設備投資を行う。当初は、本社から技術スタッフ1人を派遣し、2人は県内から新規採用する。徐々に県内からの雇用を増やす方針。初年度の生産額は約1億5000万円を見込んでいる。

上田社長は「暖かい沖縄は精密加工に適しており、優秀な人材を確保しやすい。人材一献できる」と語った。人を育成し、沖縄の雇用にも貢献できる」と語った。

沖縄タイムズ 11月18日(木)